

みおしえ

「母も父もそのほか親族がしてくるよりもさらに優れたことを、正しく向けられた心がしてくる。(法句経四三中村元訳)」

この法は、仏がサーヴァッティにおられたとき、ソレツヤ長老について説かれた。話はソレツヤと云う町で起った。ある日ソレツヤ長老の息子が友人と車に乗って沐浴に出かけた。その時マハーカッチャーナ長老が鉢鉢をの長老は私の妻になる。あるいは私の妻の身体は長老のようになる」と想った。そう想っただけで彼の身体は長老のよげ消え、女根が生じた。彼は恥じて車から降りどこかに逃げ去った。

女性になった彼は、タツカシラ長老の息子と一緒に二人の子を産んだ。彼はソレツヤの町で既に二人の子がいたから、四人の子の親になった。やがて彼は友人を介しマハーカッチャーナ長老に許しを請うた。マハーカッチャーナ長老は彼に会い「許す」というと、たちまち彼に女根が消え、男根が生じた。

彼は友人に会うと、「最初男に生まれ二人の子をもうけ、次に女となりまた二人の子を産んだこのように私の身に變化が生じもはや家に住めない。出家します」と言った。

長老は彼を出家させソレツヤと呼んだ。彼は、自分自身に滅尽と衰滅を觀て無礙の智慧と阿羅漢の境地を得た。しかし多くの者から子に対する愛情などについて疑いの目で見られた。そこでブツダは彼が正しく置かれた心によって道を觀て以来いかなる愛情にも動じないことを語りこの偈を唱えられた。多くの者はこの説示を聞いて預流果を得た。

(ダンマパダ全詩解説 片山一良参照)

心の言葉
南無妙法蓮華經と唱え
心を正しく向けよう
素晴らしいことが起きる

お題目で成仏する人

釈尊の悟りの境地は、いわゆる宇宙即我である。宇宙即我とは、宇宙大生命と自らの一体の境地である。この境地においては宇宙の生成と存続、破壊のサイクルを幾度も体験する。また万象万物と一体も悟り、全ての生類の心を自分のものとして感じ、それらの輪廻転生をも知る。圧巻なのは心の内に太陽系、銀河系、大宇宙を觀ることであらう。この境地を一念三千の悟りという。本の己心から大宇宙のすべてが生まれ、その心にそのすべてが備わっている境地である。

この悟りの境地を日蓮聖人は、大曼陀羅ご本尊に顯された。大宇宙生命体本仏一大秘法妙法蓮華經に南無妙法蓮華經と帰依すると、本仏の己心と一体になった私たちの心から、光が発し万象万物を顯しそのすべてが妙法五字の光に照らされ、全ての生命存在は本仏の尊嚴を顯した姿となる。また全ての命は、心と心がつながり合い南無妙法蓮華經と唱え一大調和の姿を顯す。

私たちは南無妙法蓮華經と唱え大曼陀羅宇宙の大調和を悟り、現実の娑婆世界を淨佛国土にしてゆく。

釋尊の宇宙即我の悟りに、私たちは日蓮聖人のお示しになった大曼陀羅ご本尊に南無することによって到達できるのである。妙法とは大宇宙の源存在である。それは全ての命の本源であり、永遠の宇宙の大生命であり、私達の命そのものである。サツダルマすなわち妙法とは永遠に在り続ける命の意味である。永遠の命。南無妙法蓮華經と唱え、この永遠の命を悟ることが出来る。